



自分のまちが好きになる アニメーターと行く、 御畳瀬でロケハン！【2】

◆ 今日の授業は…

雲一つ無い晴天の中、第2回目の授業が始まりました。吉富先生はお仕事の都合で、山口県下関市からのリモートで参加です。

最初にマミオ先生から、前回の振り返りと、今日の授業内容の説明がありました。

今日は、御畳瀬地域でフィールドワークを行い、撮影した写真をもとに、様々な情報を書き込んで1人1枚の作品を制作します。作品は、最後に成果品としてフォトブックになること、また1枚の大きな御畳瀬のロケハンマップを作り展示することも考えているとお話がありました。



「町に出て感性のアンテナを立て、いろんな物を見て感じてください。そして自分が一番面白いと思う物を見つけてください」との言葉で締めくくられ、受講生たちは御畳瀬の町に飛び出しました。



◆ 外に出て、見て、感じよう

御畳瀬の「北班」と「南班」に分かれて、地図を片手に、フィールドワークがスタートしました。今回は、こうちみませ楽舎の黒笹校長と、見学者の方も参加して一緒に回ります。講師の吉富先生も、リモートでフィールドワークに参加しました。

受講生たちは地域を回りながら、それぞれ自分が気になった場所を写真に収め、ワークシートや付箋に「場所」「気がついたこと」「自分が感じた思い」などを付箋に書き留めていきます。

「あ！サギが屋根に止まっている」「お花が綺麗」など、楽しそうにあちこちを見て、写真を撮っていました。

この日は晴天に恵まれ、太陽の光を受けて漁師町の街並みが輝いています。思わず写真を撮ってしまいます。すべてが、ここにしかない景色ですね。

黒笹校長も「御畳瀬は漁師町の海に面した町のイメージだけど、山側の家々の佇まいも趣があって面白い。一方で、かなり古びた家もあり、高齢化と人口減少を目の当たりにした」と、今回のフィールドワークを通して実感されていました。



◆ 感じたことを言葉にしよう

1時間のフィールドワークを終えて、受講生たちは教室に戻り、次の作業に入ります。撮ってきた写真の中から一枚を選び、その写真の横に付箋で今日発見したことや感じたことを書き留め、一枚の作品に仕上げていきます。



同じ町で写真を撮っても、人それぞれで着眼点はさまざま。年齢が違えば、視線の高さや感じ方も違ってきます。8歳の女の子は、港の防波堤の隙間を「校門みたい」と表現。大人からはなかなか出てこない言葉ではないでしょうか。

出来上がった作品たちを見て、「この人には、こんなふうに景色が見えているんだなあ」と、しみじみした気持ちになりました。

普段は知ることができない、他者の世界観に触れられる。そんな機会にもなります

